

ネットワークセミナー007 レポート

「スウェーデンのコレクティブハウス事情」

- 日時:2009年12月13日(日) 14:30~17:30
- 場所:松陰 commons
- スピーカー:NPO コレクティブハウジング社 影山

- セミナーレポート:

【セミナーに出席した CHC スタッフから、感想を含めて以下レポートします。】

12月13日(日)、松陰 commons にてネットワークセミナー007「スウェーデンのコレクティブハウス事情」が開催されました。

師走の忙しい時期にも関わらず、50名近くの方が集まる大盛況ぶり！

CHC メンバーが9月に視察旅行で訪れたスウェーデンのコレクティブハウスの様子を中心に、当地におけるコレクティブハウスの変遷などもご説明いただきました。

今回訪れたコレクティブハウスは、「熟年型」と呼ばれる2つのハウス。

この熟年型とは、例えば入居者は世帯のうち1名以上は40歳以上、家族がいる場合でも18歳未満の子供は入居できない、等の入居規制を設定しているハウスで、約50軒のコレクティブハウスがあるスウェーデンでも、この熟年型は10軒に満たず、主流ではないそうです。

ではこの熟年型のハウス、実際にどんな雰囲気だったのでしょうか？

フェルドクネッペン

ここの住人の方たちは、高齢になっても、自分と隣人の為に何かしよう、何かしら役割を担おう、この家をより良くしようという思いで過ごしています。

でも無理はせず、それぞれできる範囲で、できることをシェアしてやっていく。

時には衝突しながらもその議論の中でお互いに学び、さらに改善プロセスの中でも学び続ける。

絶えず学び続けているということが、「ここ」に居場所がある、ネットワークがあるという安心感につながるんですね。

その安心感があるからこそ、あるおばあちゃんは何度救急車で運ばれても、またこのハウスに戻って来るそうです。

ソッケンストーガン

ネットワークセミナー 007 レポート

フェルドクネッペンの姉妹ともいえるこのハウス。

でもこちらは新築ではなく、地域の老人ホームであった建物を改造してコレクティブハウスにしたそうです。

廃墟化していた建物を再利用したことで、地域の環境改善にも役に立ったとか。

コレクティブハウスはハウスの中だけでなく、その地域にも新たな価値を生み出せるんですね。

これらのハウス共通の面白いシステムが、自主管理による管理費の払い戻しです。

自主管理 = 例えば共有部分の掃除など行うことで、住宅供給会社(公共)からの管理費の払い戻しを受け、それをハウスの共同財産に充てているそうです。

熟年型という、誰かにサポートしてもらいながら暮らす「一方通行」のイメージがありましたが、ここでは自分たちで決めた規則にしたがって生活し、「双方向」なコミュニケーションが存在します。自己解決型の発想を持って暮らすことの大切さを改めて感じました。

二つのハウスの紹介の後は、スウェーデンでのコレクティブハウスの変遷についての簡単なレクチャー。

スウェーデンでコレクティブハウスが生まれたのが 1935 年。ただそれはプロのサービスを入居者に提供する「ホテル」のような形態のものでした。

それが現在のコレクティブハウスのような形(自立した個人が共同体に貢献する)になったのが 1979 年。それから今年で丸 30 年なんですね。

30 年も経つと、スウェーデンの人たちが、このコレクティブな暮らしに慣れているような錯覚に陥りますが、決してそんなことはなく、実際に暮らすことでこの暮らしに順応してきているそうです。

日本でのコレクティブハウスの認知度はまだまだ低いですが、スウェーデンに追いつけるようなコレクティブハウス王国になったらいいな、と思いました。

最後に CHC からの提案として、下記の 3 つが議題にあがりました。

事業主をどうするか？

NPO が 100%株主の事業会社を設立し、NPO の意思決定のもと事業会社が建築資金を集めることはできないか？

居住権(賃貸と分譲の間の権利と位置づけ)

ずっと家賃を払い続けることへの不安を払拭できないか？

終身払いの個人年金と紐付けて家賃支払いに充てるというのはどうか？

居住者コミュニティー等第三者組織の有様を考える

CHC が全てのコーディネートをするのではなく、第三者に移行することで、もっと作ることに専念できないか？

ネットワークセミナー007 レポート

すぐには結論が出ないかもしれませんが、今後も議論を重ねて、より良いコレクティブハウス作りが存続していくことを祈っています。

以上